

# 憲法を守る義務があるのは政府や国会議員だ！

## 憲法99条を見よー水島朝穂さんが講演

11月26日、西河原公民館で“武力で平和はつぐれない”をテーマに60名の出席者による憲法学習会を行いました。「東日本大震災と憲法～被災地で考えたこと」と題して水島朝穂さんが講演し、被災状況と憲法の意義を熱く語りました。また、映画「原発切抜帳」を上映しました。

**[被災地を調査]**水島朝穂さん(早稲田大学教授)は今年4月に、東日本大震災と福島原発事故の生々しい被災状況を調査、その走行距離は800kmにおよび、また女川原発にも入って所長や避難者と話をしてきました。その後、各地で講演、11月に入ってから休日の度に講演している中で、狛江にも来ていただきました。その中で栃木県佐野市では田中正造の命を賭けた闘い(囲み記事)に衝撃を受けたと語り、歯切れよく話し始めました。

**[復興が急がれているその時に…]**かつて日本政府は「一億総ざんげ」といって戦争責任を取らなかったが、いままた福島原発事故という「究極の人災」を前に「想定外」などと言って東電も政府も責任を取ろうとしない。しかもこの内閣は復旧・復興が最も急がれているときに、その被災者の思いそっちのけで、アメリカの要求に従いTPP(環太平洋経済連携協定)やPPP(官民連携協定)を推進し、黒船だ、バスに乗り遅れるななどとあおる。ドサクサにまぎれた一種の催眠商法だ。こういうときは立ち止まって、考えることが大切。

さらに非常事態を口実に憲法改定まで動きだした。

**[なぜ、いま、憲法なのか]**憲法は「みんなで守る大切な決まり」と誤解している人が多い。誰が守るのかは99条に明記されている。守るのは権力を持っている人で、国民ではない。破る可能性のあるのは権力者だからだ。そこを権力者は変えたがっている。1994年読売新聞の憲法改定私案では平和条項とともに、99条を変えて国民だけに憲法を守らせようとした。

国民は憲法を守らなくてよい。そこが法律と違うところだ。憲法が国民に自由や人権を与えてい

憲法99条：天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。



講演する水島朝穂さん

るが、それは国家権力から個人の自由と人権を守っているということだ。最近、人権を人間同士の関係に変えてしまおうとする動きがあるが、それは民法が行うことだ。

**[立憲主義]**戦後政治は立憲主義が根付いていない。立憲主義とは権力者を縛るための憲法を持っていることで、民主主義的に選ばれた時々多数派によっても変えてはいけない。99人の多数に対して1人であっても、その1人の権利を守ることである。だからこそ権力が集中しないように三権分立され、中央と地方自治がある。改憲勢力は“権力に優しい”改定をしようとする。たとえば96条の憲法改定条項で、2/3の発議から1/2にハードルを下げようとする。不純で恥知らずな動機だ。

水島さんは、したがって、9条の会は“9条を守らせる会”が正しい表現で、99条と合わせて「こまえ999(スリーナイン)の会」はどうかと提案をしました。

**[平和の作り方]**さらに、この憲法は平和の守り方(戦争の放棄、軍隊・武器の放棄)だけでなく、作

・北風に負けるな九条吾もおる  
・九条は民の礎(いしづえ) 山眠る  
孝雄

り方まで教えてくれている。前文で、全世界の国民から恐怖と欠乏をなくすように、日本がそのために行動することを求め、そして「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」。各国政府はいがみ合っているかもしれないが、どの国にも平和を愛する人々はいる。その人たちとネットワークを組んで平和を作ることである。**[4 文字熟語に注意せよ]**そして、講演は「政治改革」と言って小選挙区制、「国際貢献」と言って自衛隊派遣をする。さらに惨事便乗型でアメリカ資本が被災地に参入してくる TPP について具体的に指摘しました。(M.N)

田中正造は、直訴状の中で天皇に対して、政府に次の 6 点をやらせるよう求めた。

(1)渡良瀬川の水源を清めること、(2)川の流路を修築して元どおりの天然の姿に戻すこと、(3)猛毒の土を除くこと、(4)沿岸の計り知れない天産物を復活すること、(5)頽廢した多数の町村を回復させること、(6)毒物を出す鉱業を停止させ、毒水と有毒の廃石の流出を根絶すること  
足尾銅山を福島原発に置き換えれば、現代の課題である。

(講演会で読み上げる。)

水島朝穂 HP 参照

<http://www.asaho.com/jpn/bkno/2011/1128.html>

## 九条の会全国交流集会に参加してきました。

11 月 19 日、神保町の日本教育会館で 10 : 30 ~ 4 : 30 まで、雨の中日本中から 750 名が集まり、全体会、分科会、分散会・・・と講演や活動報告、アイディア披露など熱気と笑いに溢れた。

朝の全体会では、まず呼びかけ人の大江健三郎、奥平康弘、澤地久枝の三氏が 20 分ずつお話。



澤地さんは骨折で長く入院されたにもかかわらず、相変わらず明るくチャタリングで、入院中にはみんなに会えないので鬱になったが、みんなと会うと元気になると根っこのしっかりした怒りとエネルギー一杯に語りかけた。大江さんは、読売の論説委員や石破元政調会長が盛んに「原発を動かしておかないと、核の抑止力がなくなるぞ」ということを言っている、原発の問題は明らかに九条の問題なのだと。「抑止力」はきちんと訳すと「抑止」ではなく「脅し」なのに誤魔化していると。奥平さんはみんなの注意が震災に行っている間に進めようとしている憲法審査会への注意を喚起し、また被災地では 13 条の幸福追求権 25 条の生存権も脅かされていることも確認した。その後、岐阜・宮城・福島・群馬の中の九条の会と大阪宗教者九条ネットワークの代表が活動や思いを報告。

午後はホールでの特別分散会に参加(他に女性の分科会や意見を交換し合う特別分科会もあった)。8つの種類の違う九条の会からの報告があり沖縄からは対馬丸(1944年8月に米軍の魚雷で沈没させられた沖縄からの疎開船)で生き残られた女性が話され、80代90代の女性たちは、復帰運動をしてきたからすごい底力があり、どこでもとんでいってデモや集会、座り込みなどに参加する。だが、沖縄では常に犯罪や事故が起り続けており、私は一度として平和に眠れたことはない。最後はダントツで若いICU(国際基督教大学)九条の会の大学3年生が壇上に上り、学生は決して社会や政治に関心が低いわけではない。特に3.11以後ガラッと変わった。(どうやったら若い人たちと一緒にやれるかとの質問に)ただ駅前でチラシを配るとかではなくちゃんと顔が見えるように個人的に話しかけて欲しい、学生が興味を持てるようなイベントをやったらどうか、そしてfacebook やツイッターもやってみたらどうですか?に笑いが起こった。又、小さな地域にやたらと九条の会の数が多いところがあり、何故?と聞くと、「和太鼓九条の会」とか趣味の集まりを九条の会にしているグループがたくさんあるようで、素敵だなと思った!肩肘張らず、どうせ楽しく集まるなら九条の会にしちやおうという発想・・・素晴らしい〜〜!!

最後に事務局長の小森陽一氏が「こんなに高齢者ばかりで頑張っている集団は世界でも珍しいのでは?誇りに思おう!」とみんなを元気づけた。(mari)